

第8回ウィズあかし運営委員会
「市民みんなで作るウィズあかしを考える会議」議事録

令和5年3月3日（金）18：00～20：10

複合型交流拠点ウィズあかし 8階スペース∞

参加者：運営委員 10 名 明石コミュニティ創造協会スタッフ 13 名

1. あいさつ

〈事務局〉

本日もお忙しいにもかかわらずご参加いただきありがとうございます。

今回で第2期のウィズあかし運営委員会が最終回となります。第2期の運営委員会でどのようなことを積み上げてきたのかの振り返りを行うとともに、来月から始まるウィズあかしの指定管理運営第2期に向けてのご意見を、みなさんからいただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

2. 第2期運営委員会の振り返り

事務局よりスライドを使用して、これまでの運営委員会の振り返りを行った。

3. 次期指定管理の動きの共有

事務局よりスライドを使用して指定管理申請の内容を説明し、その後に各チームで感想共有・意見交換を行った。

4. 次期指定管理の動きの共有

各グループで「第3期運営委員会・第2期指定管理運営につなげていきたいこと」について、感想共有・意見交換を行った。

【A グループ】

■拠点としてのウィズあかし

- ・地域性が薄い部分も気安さに繋がっている面がある。
- ・フリースペースの広さが心地よい。本を読んだり勉強したりする人と、活動で集まっている人がそれぞれ自由に利用している。他市にはない。「フリー」感、解放感。

■スタッフの変化

- ・ウィズフェス・ウィズゆうは、回を重ねるごとに良くなってきている。
- ・振り返りを繰り返していくことが大事。
- ・スタッフの変化が、利用者の変化に

- ・スタッフやセンターは、触媒（きっかけ）。利用者自身が自分の力で変化

■人材登録メンバー制度（じぶんのこと登録）

- ・何かやりたいけど、何をすれば分からない人向け講座
- ・「話を聞こう会」でのディスカッションや名刺交換
- ・自己肯定感の低い人←実はそんなことない。←潜在的な人材
- ・チャレンジ（失敗しても良い）
- ・今までとは違う分野の人とのネットワークをコーディネートできないか。
- ・地域で精力的に活動する人達がいる（無農薬野菜を育てているが人手が足りない、コーヒーショップなどの小さいお店を沢山開いて就労支援）
- ・コープ神戸の話で、土地はあるけど店舗としては利用できないものがある。→クラウドファンディングで数億円集めた人が、女子寮を利用してDV対策施設に。
- ・そういった人たちとのつながりによって、新たな「子どもたちが出向ける居場所、安心できる居場所」が生まれるかもしれない。

■ウィズゆうではできないネットワーク作り

- ・ウィズあかし登録団体以外を超えた団体交流（企業など）
- ・ウィズあかしから始まった活動が、地域へ広がっている。
- ・拠点としての活動から、出張しての活動へ、支援を広げていく。
- ・「育み、育まれる施設」へ。スタッフと利用者が有無、循環と相互作用
- ・循環の各シーンで提供できるカードをスタッフが持てるように
- ・市民活動支援では立ち上げを重視しているが、立ち上げた後の支援も必要なのではないか。
- ・さらに言えば、すでに独力で活動している活動団体に対して支援できる事もあるかも。

【Bグループ】

■今期の良かったところ

- ・今期アウトリーチが進んだ（中コミで講座の実施したことや西部でサテライト会場を設けたこと、ブックスポットとつながったことなど）

■今後、期待したいところ

- ・さらなるアウトリーチを進めること。

ex) 中高、商業施設と連携するなどして、普段実施しない場所で、事業を行うなど。

- ・優れた人材（能力、意欲がある人）とのつながりの提供。
- ・様々な人（職業、年齢、性別、特技 etc）とつながれる機会の提供。
- ・従来までの地域を支えてきた人を尊重しつつも、新しく変革していくこと。
- ・明石西部へ知名度を浸透させること。

【C グループ】

①これまでのウィズあかしの振り返り

■施設のやわらかさ・気軽さ

- ・ウィズあかしは最初の頃に比べて活気が出て、雰囲気柔らかくなってきた。
- 他の公共施設にはない自由な空間。食事ができるようになれば更に良い。
- ・ウィズフェスに男性が1人で参加している姿を多く見かけ、変化を感じた。
- ・hito-haco ができたことで、話のきっかけが生まれている。

■スタッフのやわらかさ・対応

- ・スタッフの対応が柔らかく、声をかけてもらえる関係性ができている。
- ・雑談しやすく、雑談の中からポロっと胸の内を話したり、相談しやすい。
- ・目的がなくてもフラッと来たくなる。ウィズあかしに来ると“何か”がある、“何か”が話せる。

②今後期待すること

■活動のしやすさ

- ・(委員自身が) 活動をする中で、地域にはできることやきっかけがあれば「何かやりたい」と思っている人はいると感じている。
- ・重い責任を背負わされるのは困るが、ちょっとしたお手伝いができる“気軽な”仕組みがあればよい。
- ・得意なところを引き出して背中を押す「得意なことバンク」のような仕組みを作り、小さな力をいっぱい出し合うことが大事。
- ・あかし楽では、自分の好きなことや知識を通して明石を知ってもらえるとよい。「面白い」「楽しい」が大切。

■施設利用の利便性

- ・貸館を2時間ごとの枠で利用できるようにしてほしい。
- ・午前・午後の間の時間を30分にできないか。
- ・以前のように食事ができるようになったらよい。

■その他

- ・西側に図書館等の公共施設ができるが、ウィズあかしがそのような拠点に向いて雰囲気(場)づくりをしてはどうか。

【D グループ】

①3期運営委員会への期待

- ・広くメンバーを募集するのは幅広い意見を取り入れるためにも良いと思う。
- ・年齢層のギャップから新しいアイデアや方法が生まれると思うので、広く参加してもらおう仕組み

は良いと思う。

- ・年齢や性別問わず幅広い人に関わってもらい、様々な意見を上手く取り入れられる仕組みづくりができれば良いのではないか。
- ・運営委員会に参加するまでウィズあかしの業務を知らなかったし、3年経ってようやく理解できたことが多い。“幅広く”とはいえ、ウィズあかしをある程度知っている人に関わってもらうのも必要ではないか。

②2期ウィズあかしへの期待

■広報

- ・ウィズあかしの知名度がまだ低いと思う。3つのセンターが1つになっている強みや男女相以外の相談機能（NPO 立ち上げ相談等）をアピールしてみてもどうか。
- ・機関紙の充実
- ・広報あかしでウィズあかしのイベント情報だけでなく施設概要を掲載できたら認知度もあがると思う。
- ・ネット（HP や SNS）だけでなく、紙ベースの媒体も拡充（高齢者はやはり紙ベースが主流）

■地域とウィズあかしのつながり

- ・スクールガード等、地域の現場の活動に少しでも参加する人を増やしたいと思っている。ウィズあかしでは市民活動団体の登録も多いため、地域（まち協）とウィズあかしがより緊密になっていくと良いと思う。
- ・西側の地区へのアプローチを増やしてほしい。サテライトを大久保等の中間地にもあれば良い。
- ・広報とも重なるが、地域の中で「それやったらウィズあかしに聞いたら？」とウィズあかしを勧められるようにしたい。

5. まとめ

〈事務局〉

では、第2期運営委員会のまとめとして、各委員から一言ずつ、学識者のお二人からまとめのメッセージをいただきたいと思う。

〈委員からのコメント〉

- ・来期は意識して外にも目を向け活動や行動をしていけるといいと思う。
- ・「人はまちなり」。人は資産であり、人が町の雰囲気を決める。
- ・所属団体の高齢化が原因で縮小傾向にあることを実感している中で、ウィズあかしには活動の内容も含めた支援やアドバイスを提供していただける。そんな場でいてほしい。
- ・来るもの拒まずをモットーに「やってみようは変化の第一歩」の気持ちがウィズあかしとつながるきっかけとなり、利用者からウィズあかし運営委員を経験することで、仕事以外での町との関わりや自分自身の考えが広くなり、人生が変化したように思う。そういう人が一人でも多くなる

ことを願い、やってみようと考えている人の後押しをできるような施設であってほしい。

- ・ウィズあかしにはいろんなことにチャレンジできる未来へ繋がる「道」の道しるべとなって欲しい。
- ・第3期は各地区から明石在住の優秀なメンバーの募集を行い、運営委員会の体制を整えていくことで、ウィズあかしは存続していけると思う。また、過去に2, 3回一般の市民から問合せもあったので、巻き込んでやっていくことは大切に思う。個人的には運営委員の参加は個人的にプラスであり、団体活動のステップとなった。また、団体の横の繋がりが出来て嬉しく思う。
- ・第2期の運営委員会は70代の人が多いので、第3期の要望として募集をする際は年代を幅広くするため、若い人を入れていくことの検討が必要。また西の方はウィズあかしの認知度がまだまだ低いので、広報あかしなどを用いてウィズあかしを宣伝していけたらいいのではと思う。
- ・運営委員会を通して学ぶことが多かった。私が考えていたこととウィズあかしの方向性とは一致していたので、第3期の方へバトンタッチができる。

〈学識者からのコメント〉

- ・3年間、川西から明石へと車を運転しながら見る四季折々の風景に思い出が残った。ウィズあかしに来ることは楽しみであり刺激でもあった。運営委員としては、事業の評価について何を基準に、何を大事に考えるかを常に提案してきたように思う。中間支援拠点の事業の評価として、数や量を中心としがちで定量評価だけでなく、質に重きを置く定性評価をどう取り入れていくか、それをいつも念頭に置いて発言してきた。事務局側はそのことを意識しつつ、そして市民はいつの間にか活動に携わっている、そのような運営が今後もなされていくことに期待している。そのための広報活動も重要だろう。
- ・第2期での変化は、日報や指定管理がとれたことは上げられるが、取りこぼしもあり、フォローアップが必要な点もある。ウィズあかし運営委員をすることで民生委員になる一因となった。いままで評価指標を考えてきたが、測りすぎには注意が必要であり、測りすぎることで、図ることが目的となることは本末転倒になる。

運営委員会やウィズあかしを考える会、日報のネーミングは再検討するべきでネーミングを変えることで人の意識も変わるかもしれないと思う。

また、8回もするとテーマが似かようので毎回具体的な議論テーマの設定し絞ることが必要。そうすることで運営委員が会議に参加したくなると思う。

小さくてもいいので、実験をやってみるということが大事。実験結果を運営委員会に持ち込み議論することができると思う。

デザインも大事。市民協働や人との関係性は目ではわかりづらいので、ビジュアル化できると理解できる人が多くなると思う。町と人とのスパイラルの図はいいような気もするが工夫は必要。

まちと出会うとは？の答えが見つかるといい。各地域で人、資産、風習、しぐらみがあり、各々違い、それぞれの解決策が必要であり、ローカルグッドの為のローカルプランができるとより地域に密着して出会うことができると思う。

大学の3月は別れの時期であるが、意思のバトンを託し『意思のリレー』をつなぐことで明石の雰囲気づくりに繋がっていくと思う。

〈事務局〉

今日もお集まりいただきありがとうございます。みなさんのお話を聞きながら、改めてみなさんと一緒にウィズのことを考えられた1年だったと思う。スタッフも利用者とともに変化してきた期間だった。運営委員会でともに考えていただいた時間があったからこそだと思う。2期目はこれまで話し合ってきた内容を、市全体に広げていくことが求められる。今後とも関わっていただきながら一緒に作っていただくことを期待しています。

全8回、ご参加いただきありがとうございました。

【意見交換まとめ】

第2期の
運営委員会を
振り返って。

3期運営委員会 &
2期ウイズ"あがくと"
つなげていきたい
こと

- アクト1-4、中3ほど核がわり。
 - ↳ 2期に1年、どう進めるか。
 - ex. がんスポット etc.
- モバイルとどうつながるか。
 - ↳ 地域づくりにも発展。
- 3期目、若い世代にも参加。
 - ↳ 1期目の50%増が1.5...
- ウイズ自体の広報強化。
 - ↳ 広報がAI活用。
- スパイラル、地域につなげる。
 - ↳ 1期目の成果! 評価できる!

↑
受け皿の状況は
大丈夫?
α 3期目...
↑
3期目90%
COMISO9 役割。

↑
つながると
いい!

施設/ス770。せりあが。活動

↑ 必要?

- (空間の自由さ (7/12/16))
- (ス770との関係性、コミニケーション)

↓
770とせりあがのウイズに。

- 今後、活動の拡大とサポート。
 - ↳ 潜在的にセリあがにいるはず。
 - (来世村、乗込大車)
 - (出ていって場づくりに関わること)
- ウイズの770とせりあがのつながり。
 - ↳ ス770利用者、世に普及。青木、高橋の施設。
- 活動立ち上げの支援、あがの支援...
 - ↳ 団体の状況に合せてサポートしよう。
- ウイズの770とせりあがの交流機会とは。
 - ↳ 770とせりあがの機会づくり。
 - ex. 企業一見関係はこむ活動自体の場
 - ex. 「話し合い」 個人、分野。

770
関係性

【委員からのコメント】

